

私は大学の定義を論じる分野の専門家ではない。だから着想の発表と考えて頂きたい。また話を大学の教育機関としての側面に限定する。単位互換の考え方を駆使して従来の単位取得要件よりも柔軟な単位取得要件を設定してはどうか、という事を提案する。教育機関としての大学はユニークな教授によって価値付けられている場合もある。しかし英語の分類で言う「大学」という単語は普通名詞だし「学士」「修士」「博士」という単語も普通名詞だ。音楽演奏の世界で良く言われる「誰それに師事した」という事は、学問においても意味があるだろう。しかし、それとは独立に、高度に発達した現代社会にふさわしい制度としての教育システムという観点から

IT(Information Technology) ならぬ

ET(Education Technology)の標準規格を整備する、という発想も建設的だと思う。従来は、オンラインのヴァーチャル大学の場合まで含めて、教育機関が大学や大学院として認定を受ける、という形が主流だったのではないか。つまり入学から卒業までの教育の全体に対して、それが大学であるか否かが定義されていた。私が提案するのは、もっと細切れに同一の単位取得に対して何通りもの履修形態が可能な様に単位取得要件を柔軟化する事だ。